Magazine for Industrial Design

Design News

Japan Industrial Design Promotion Organization

特集(1):'93世界のグッド・デザイン賞

特集(2):デザインとエコロジー



224

製造流通に手を染めたデザイナー達

「ミケランジェロの末裔の手」ではないけれど

酒井俊彦



秋葉原へ行ったら、「マハポーシャ」の呼び込みにさらに拍車がかかっていてびびってしまった。某宗教団体が販売しているこのコンピュータ、最初のうちは普通にその安さと性能を街頭で宣伝していたのだが、最近では、何を言っているのかよくわからず、ほとんど呪文を唱えるノリで、少し踊りも入っている。見ていると怖い。あれで果して宣伝になっているのか非常に疑問だが、一見の価値はある、と思う。

不況、不況といわれつつも、宗教団体が自社ブランドのコンピュータを作って売っているご時世に、デザイナーがモノを作っていないわけがない！というわけで今回のレポートは題して、「流通を制したデザイナー達」の予定だったのだが……。

「アーレンスの自転車」を知っている人はデザイナーには結構多いと思う。しばらくの間パルコにも置かれていたし、一般誌、デザイン誌を問わず幾度か取り上げられたこともある。「ビジネスとしてはいいとこトントン。決して大儲けという話ではありません。」とは代表の中條健之助氏。当時、市場に存在していなかったごくシンプルな自転車が欲しかった彼は、世の中への提案の意味を込めて、10台の自転車を作ることにした。これがきっかけで、受注での生産が始まるようになる。その後は、口コミや、雑誌の影響もあって一時はかなりの数をさばくようになったのだが、パルコとの契約が切れたのを区切りに、現在は受注生産に戻している。供給体制の不備、担当者の退社など物理的な理由を語ってくれた中條氏だが、「もともと趣味から始めたものが商売になっていくにつれて、自分自身の個人的な自転車への興味がそがれてしまった。」という言葉から、精神的な理由を強く感じた。現在、アーレンスは企画からデザインまでの仕事をデザイナーの本分と考え、力を注いでいる。

一方で、工場まで作っちゃったんだから、ペイするところまで行かねばと静かに燃えているのがイメージラボ テクストの加藤俊男氏。「デザイナーってゆうのは、何か製造業の人の助けになるような面もある商売だと思う。」ということで、地元の製紙業の活性化のためにと始めたのが和紙でできた照明器具のシリーズ、「KARTA」。紙業試験場での悪戦苦闘のすえ、繊細な曲面を持つ和紙の成型に成功、昭和63年のグッドデザイン部門別大賞を獲得している。もともとの志からいえば、加藤氏が工場を持つ理由は一つもないのであるが、ここでも地場の工場が注文に対応しきれなくなるという供給の不備が生じてくる。結局、自分で工場を建てることとなる。「工場を始めて、自分は経営者なんだ、と自覚した。経営は大変だけれども、すごく楽しいし、工場を作って軌道に乗せていくということ自体もデザイン活動の一種だと思っている。」という加藤氏。現在、工場で働く3人の「デザイナー的職人」達（多分、本来の職人というのはこういう職業だと私は思う。）は5周年の節目に新作を発表すべく試作に取り掛かっている。

最後はエスメーベルの内田滋氏。もともとファッションデザイナーだった彼が黒崎氏と出会いイデーに入社。その後独立して5年、内装と家具の2本立てで仕事をこなしている。独立して家具を作り販売しても儲からないことは火を見るより明らか。「どうして？」の問いに「好きだから。」の一言。日本の家具デザインの現状が、とか、住宅の質が云々とかいう返事を期待していたのでかなりの拍子抜け状態だった。（あまりに自然にあっさりといわれてしまったので納得しつつも、ここのところ能書きをいうことが増えた自分が恥ずかしかったりもした。）

最近発表した子供用の家具は氏の自信作というだけあって、オリジナリティに溢れ、何より大人も嬉しくなってしまうような家具だ。自分の子供に作ってあげたかったのがきっかけというこの家具は値段も安く押えられている。掛率の問題でデパートでの販売はいまのところ実現しておらず、流通の弱さは気になるところだが、こういう純粋でいいモノが世の中にどんどん出ていくことを期待したい。

結局、「流通を制したデザイナー」の出現までは今しばらく時間が必要だというのが今回の結論なのだけれど、自分で流通までこなすというのはやはり、かなり面白そうで、それはデザイナーとしての理想形の一つだと思う。思い立ったが吉日。これを機会にあなたも「流通を制するデザイナー」に挑戦してみてはいかが。ただし、最後にアーレンス中條氏からのメッセージ「これ以上、世の中にゴミを増やさないように。」





「デザイナーの本分は、企画からデザインまで」とアーレンス「自転車」の中條氏。「工場をやるのは楽しい」とイメージラボ テクスト「照明器具」の加藤氏。「家具が好きだから」とエスメーベル「子供のための家具」の内田氏。モノづくりのトータリティをめざす3人のデザイナー達。